

平成27年度 学校自己評価システムシート (県立深谷はばたき特別支援学校)

目指す学校像	子供が生き生きと学び、活動し、教職員が元気で活気のある学校
--------	-------------------------------

重点目標	1 個別の教育支援プランを効果的に活用した、一人一人の実態に即した指導・支援の充実 2 キャリア教育の視点を踏まえた系統的な指導の実践と高等部における多様な教育課程の検討 3 共生社会の実現に向けた地域の特別支援教育の推進拠点としての学校づくりの推進
------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	5名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				27年度評価(2月8日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策
1	○より正確な児童生徒の実態把握及び長期的視点を踏まえた個別の教育支援プランに基づいた指導を充実していく必要がある。 ○質の高い授業を目指して教員の資質及び指導力の一層の向上を図る必要がある。	児童生徒の的確な実態把握と個に応じた指導の充実 教員の資質及び指導力の向上	①全校で発達検査を実施し、長期的視点を踏まえた個別の教育支援プランを作成し、指導内容の具体的手立てを明確にして指導の工夫改善を進める。 ②各学部間の授業見学会を毎学期実施し、情報共有及び授業改善を進める。	①教育支援プランにもとづく指導を進めることができたか。 ②他学部の授業見学が担当学部の授業改善に生かされたか。	①全校で SM 社会能力検査等を行い、長期的な視点からの目標や具体的な指導内容等を支援プランで明確にし、より指導が充実するよう工夫改善を図った。 ②研究が日々の授業に効果的に生かせるよう、キャリア教育に関する研修を、年間とおして実施した。夏季休業中にはキャリア教育を中心に18講座の研修会を行った。 ③毎学期キラリウイーク週間を設定し授業見学・体験を実施して、日々の指導内容や方法に生かすなど授業改善につなげた。	B B ①児童生徒の多様化に応じすべての児童生徒が発達検査を実施し、多面的・客観的に発達の状況を捉えるようにする。また、指導の方針、合理的配慮などを保護者と共有し、支援プランの効果的な活用によって、より継続した指導ができるようにする。 ②多くの教員が授業見学・体験ができるよう体制を含め調整を行う必要がある。
2	○キャリア教育の視点を踏まえた昨年度までの全校実践研究の成果と課題をもとに児童生徒の将来を見据えた実践研究を継続して深めていく必要がある。 ○高等部生徒の多様化に対応する教育課程の検討を進める必要がある。	各学部及び自立活動部における教育実践の一層の充実 高等部教育課程の検討	①各学部及び自立活動部において、昨年度までの成果と課題を踏まえてキャリア教育の研究テーマを設定し、学部の系統性等を一層踏まえた実践研究を行う。 ②高等部において教育課程委員会を中心に生徒の多様化に対応する教育課程のあり方について検討を進める。	①各学部等で適切なテーマを設定し、実践研究を深めることができたか。 ②本校高等部の生徒の実態と指導方針に応じた検討が進められたか。	①各学部がキャリア教育の視点で、実態に応じたテーマを設定し、児童生徒の将来を見据えた月1回の実践的な研究に積極的に取り組んだ。 ②生徒の多様化に応じ、高等部一般学級の「職業」における情報を実施したり、不登校生徒などの実態に応じ重複学級の複数教育課程を編成した。	B A ①各学部の研修成果や課題等を十分検証し、小中高の系統性のある研究を進めて教育実践に反映できるよう取り組んでいく。併せて合理的配慮のあり方について研究を進める。 ②児童生徒の多様化に応じ、各学部においてさらに障害特性や教育的ニーズに合わせた教育課程の検討を行う。
3	○地域連携による早期支援に係る2年間の研究指定の成果と課題を踏まえ、センター的機能を効果的に発揮した取組を一層充実させていく必要がある。 ○地域や県民に本校の教育情報を効果的に発信していく必要がある。	学校支援、地域支援の充実 効果的な情報発信	①実施校との理解を進めながら支援籍学習を拡充していく。 ②関係機関との連携を一層推進しながら早期支援、学校支援、就労支援を実施する。 ③見やすくわかりやすいホームページとなるように必要な改善を行う。	①支援籍アンケート等により満足度の向上がみられたか。 ②関係機関と十分な連携機能により実施できたか。 ③わかりやすく効果的なホームページとなったか	①支援籍学習は昨年度比+8件で実施率が4割を超えた。地域の小中学校の児童生徒との積極的な関わりやいろいろな体験から自信がついたという声が多くあがった。 ②コーディネーターや進路指導主事等を中心に関係機関と連携し、積極的かつ有意義で適切な早期・学校・就労支援ができた。 ③レイアウトを全面的に変更し見やすくわかりやすいHPにした。HPプロジェクトチームを設置し、日々の更新や学部・分掌のページの充実を図った。	A B ①共生社会の実現に向け、核となる支援籍学習がより拡充するよう、さらに地域の小中学校や関係機関との連携を進めていく。 ②ホームページについては、各学部の授業内容や渉外部のPTAコーナー、地域支援等について内容の充実を図っていく。川本地区に学校だより等をおして積極的に情報発信を行う。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成28年2月10日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> ・教職員は多様な児童生徒に対し個別指導などを大切にして指導している。 ・保護者アンケートの結果を教職員がしっかりと受け止め、指導に生かしてほしい。 ・障害特性など児童生徒の実態をよく理解し、個に応じた指導の一層の充実を図り、達成度評価がAになるよう取り組んでもらいたい。 ・キラリウイークの取組は評価できるが、実施に伴い授業の継続性が損なわれないようにしてもらいたい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンを授業に積極的に取り入れ、生徒に検定などに挑戦させることは大変よいことである。今後も生徒が活用できるように取り組んでもらいたい。 ・地域とのつながりを広げ深めることや実際の体験は大変よい取組である。生徒が作った製品を多くの人に見てもらったり、頒布できる機会ができるだけ多くあるとよい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・支援籍学習については、コーディネーターを中心に、引率者や学校の指導体制も踏まえながら、保護者の理解と協力を得て実施していく必要がある。 ・文化祭には保護者だけでなく、地域の方も大勢見えていた。これからも開かれた学校づくりを行ってもらいたい。 ・ホームページが改善されたことは大変評価できる。各学部のコンテンツや更新などがさらに充実するように取り組んでもらいたい。 	